

機動戦士ガンダム0083 もう一つのガンダム

録音ソラ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

UC0083。

宇宙でデラーズ・フリートによるガンダム強奪計画が進められている頃、地上にいるジオン残党のオルゲレン小隊が別のガンダム輸送計画を知る。

彼らはG4計画により開発された重火力型ガンダムを強奪し、デラーズ・フリートの作戦支援のため、ジオン再興を目指す地上に残ったジオンの同胞たちのために立ち上がる。

そして、陸軍G4計画のもう一つのガンダムを操る連邦の小隊との戦いが始まる。

これは語られなかった地上での男たちの戦い、そして表舞台に出ることのなかったガンダムの物語である

目次

プログラグ

1

プロローグ

「G4計画」

それは、かつて連邦が行ったG-3に続く4機目のガンダムの開発計画のことである。

この計画は結果として、準ホワイトベース級強襲揚陸艦「サラブレッド」に配備されたガンダム4号機が4機目、G-4だと名目上なされている。

しかし、この計画は本来は連邦内の宇宙軍、陸軍、海軍、空軍がそれぞれG-3ガンダムを元に次世代機の開発を行う計画である。その為、4号機として造られたガンダムは他にも存在している。

宇宙軍が開発したニュータイプ専用機「ガンダムNT-1」、空軍が開発した試作可変型モビルスーツ「ガンダムGTFOUR」。

陸軍の「重火力型」と「格闘専用型」、海軍の「水中専用型」は計画のみで開発されることはなかった…と、資料には記載されている。

しかし、陸軍のG4計画はUC0080の終戦以降も秘密裏に進められ、G-3を母体を開発しつつも幾度となく改修作業を重ね、終戦から3年経ち、ついに完成された。

重火力型ガンダム。

ミサイルやビーム兵器を多く詰め込むためにガンダム本体とは別に大型のジェネレーターを装備することになったため、大型のバックパックを装備し、機動力面を補うようホバー移動するように設計された機体。バックパックにはサラブレッドに配備されたガンダム4号機が使用したとされるメガ・ビーム・ランチャーを改良したメガ・ビーム・ランチャー改を装備させ、バックパック側面には小型ミサイルランチャーとジェネレーター用の冷却材がつけられた。ガンダム本体にもビームライフルや試作型ハイパービームサーベルを装備させ、ある程度の近接戦も可能とした。

ガンダム格闘専用型。

機動力を中心に考え、装甲をなるべく薄くしつつも、高速戦闘にも耐えられるように強化を施した機体。射撃武器を頭部バルカンのみに絞りこみ、ジオンのイフリートナハトと呼ばれた機体の忍者刀のようなブレードとビームサーベルを装備。ビームダガーや予備のサーベルはバックパックなどではなく機体の脚部や腕部に収納させるようにし、緊急時にすぐ取り出せるように試験的になされた機体である。

UC0083、この完成した二機のガンダムは陸路と空路の二つを用いて、アナハイム社のGPシリーズ、ガンダム試作1、2号機とアルビオン護衛のためにトリントン基地を目指し、輸送される…はずだった。

この物語は表舞台に出ることのなかったガンダムの話であり、語られることのない地上での男たちの戦いの話である――。